

フィリピン短期熱帯医学臨床研修の経験

長谷川 麻衣子

長崎大学 熱帯医学研究所 生物環境分野

モノ・ヒトの流通が容易になり世界が相互に連結している今日、地球規模の感染症対策が必要とされている。感染症監視体制のあらゆる局面での強化が必要となっている中、日本の医療現場にいる医師は早期発見・治療・情報伝達・適切な疾病への対応といった非常に重要な役割を担っており、その能力強化が必要である。

フィリピン短期熱帯医学研修は、熱帯感染症および新興・再興感染症に臨床現場で対応する医師の能力強化を目的としている。昨年2月1週間の予備研修を終え、平成16年9月全国公募の中から6名が参加する3週間の研修を予定している。フィリピン・マニラにある熱帯感染症専門病院のサンラザロ病院と最先端の医療設備をもつセントルクスメディカルセンターで、研修先の感染症専門医からの講義と臨床研修が行われる。また、世界保健機構西太平洋支局(WPRO)訪問を予定している。

幸い、演者は予備研修に参加し再び本年度の研修にも参加する機会を得た。参加した経験からこの研修の利点は3つあると考える。第一に医師は興味ある症例の経過を追って診ることができる。デング熱・破傷風・腸チフス・レプトスピラなど日本で稀な疾患の経過を追ってみることは臨床での実用的な能力を強化する。第二に、当地の保健医療体制の問題点を目前にすることで、感染症問題を国内の問題から相対化しグローバルな視点でとらえる必要性を実感することができる。例えば結核病棟では薬剤耐性結核菌の出現の問題が実感を伴って迫ってきた。第三にWPRO・日本の医療現場それぞれで活躍する人材が感染症対策の現状および問題点について情報交換することができ、国際機関と国内の医療現場の連携を促せる。今年2月のWPRO訪問では鳥インフルエンザの実態やWHO戦略について学ぶ機会を得た。

現在の日本の医療システムでは3週間とはいえ医師が現場を離れ研修に参加することは、周囲の理解なしには不可能である。このような熱帯感染症研修の必要性が多くの人に理解される事を期待する。

尚、シンポジウムでは9月に行われる研修の具体的な内容も加えて報告する。

---

The short term training course in clinical tropical medicine in Philippines

MAIKO HASEGAWA

Dep. of Vector Ecology & Environment, Inst. of Trop. Med., Nagasaki Uni, Nagasaki, Japan